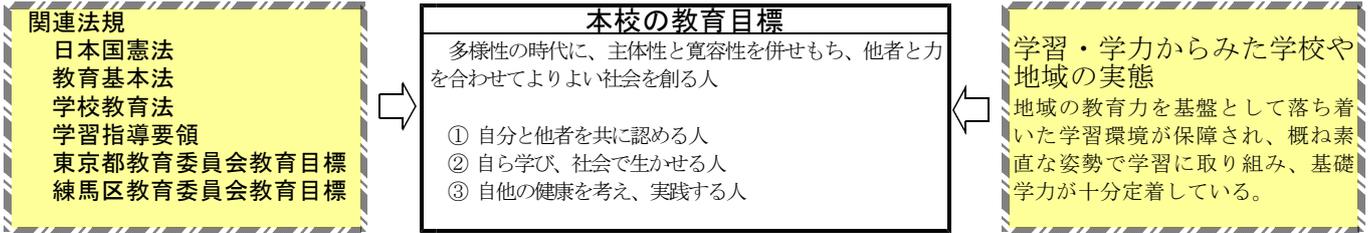
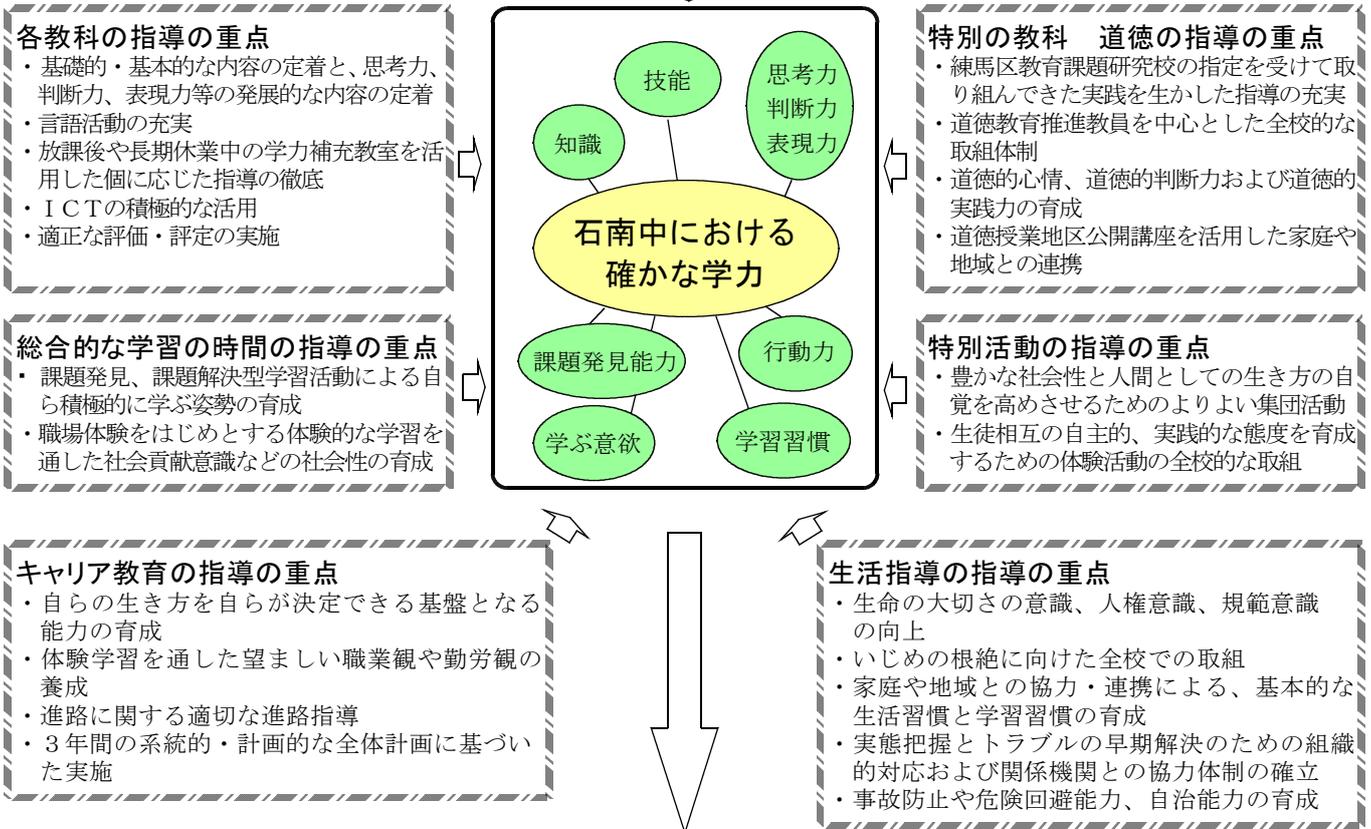


学力向上を図るための全体計画



学校経営計画より【基礎学力の定着と向上のために】

①授業時数の確保 ②校内研究授業・校内研修の活性化 ③指導方法の工夫・改善のための授業アンケート実施
 ④学力向上支援講師導入 ⑤放課後・長期休業期間中の学習支援教室の充実 ⑥言語活動の充実(読書活動の推進)
 ⑦タブレットの積極的な活用



授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容の定着 思考力、判断力、表現力の定着 言語活動の充実 補充教室の実施 9年間を通して身に付けさせたい力の定着と向上 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選による授業時数の確保と体験活動の充実 数学における習熟度別少人数授業の展開 小学校との年間行事等の日程調整および互いに学び合う場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育に視点を置いた重点の設定 9年間を見通したカリキュラムに基づく授業 課題改善カリキュラムの見直しと改善 情報機器の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 評価に関する研修 通知表書式の見直し 保護者・生徒へ向けた年度当初の評価規程の説明と周知 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と連携した総合学習の推進 基本的な生活習慣や学習習慣の定着 関係機関との連携・協力 児童と生徒との交流の機会の設定 9年間を見通した家庭学習の定着

授業改善の検証

・定期考査 ・生徒による授業評価 ・保護者アンケート ・学校関係者評価 ・各種学力調査 ・生徒観察

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の課題に対して、文章や発言で自分の考えをまとめることに課題がある。 ・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く機会を増やし、文章を構成する力や表現力を鍛え、更に考えを発言する機会を増やす。 ・認識の観点の多様性を発見させるような課題を設定し、思考力や発信力を高める必要がある。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・文献・年表・地図等の資料の活用能力に課題がある。 ・課題に対して自分の意見を全体に表現できる生徒と表現できない生徒の二極化が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時資料集や地図帳を確認する作業を設け、事象の背景や結果などについて確認することで、理解を深めていく。 ・グループワークを通じた意見を述べる機会を増やし、思考力や表現力を高めていく 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って様々な問題を解くといった数学的な思考力・判断力・表現力に課題がある。 ・数や図形の性質を証明する分野において、できる生徒とできない生徒の二極化になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、学習した内容が他の単元や問題とどのようにつながっていくかを、様々な問題を通して生徒に気付かせ、解き方を理解できるようにしていく。 ・用語や定義・定理といった知識を定着させ、証明の流れやパターンを理解させていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験データの分析に関して、その方法を基本から説明しグラフの見方やデータ処理などの理解力を育成することに課題がある。 ・実験の基本操作の定着に課題がある。 ・考察の記述に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察のまとめの時間を充分に取り、規則性に気付かせる時間をできるだけ作る。 ・データ処理の計算は自分でできるように習慣づけさせる。 ・個々の考察を肯定的に取り上げ、そこから規則性を導き出すよう指導する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考える力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講じ、言葉によるコミュニケーションを適切に位置付けることによって、音や音楽によるコミュニケーションを充実させる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に課題に前向きに取り組む真摯な姿勢がある。 ・発想面では、思いついたことを形にしたり、発展的に広げることに慣れない生徒もいる。 ・作業経験が少なく、創作の意図と基本的な造形力が結び付かないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを広げるための資料の活用や鑑賞活動を取り入れ、発想段階の指導の充実を図る。 ・様々な素材に触れる題材の設定により、素材の特性を理解させ、作業経験の幅を広げる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・学年により差があるものの、基礎体力が低く、個人の運動能力に差がある。 ・グループ学習の時間を十分に確保できなかった。 ・楽しんでゲームはできるものの、審判や安全に留意しながらのゲーム、準備や片付けなど自主的な学習に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす機会を増やし、技能の習得に加え、生涯スポーツや運動に親しむ観点から取り組ませる。 ・お互いの動きに関心をもたせ、自己評価とグループ評価をさせる。グループでの教え合い活動を増やす。 ・自発的な活動につながるよう個人の達成目標 	

		を考えさせる。また、考えて行動するよう促す。	
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試行錯誤しながら根気よく問題を解決していくことの経験が少ない生徒が多い。 ・ 自分で「考えること」や「創意工夫をすること」に、課題が見られる。 ・ 普段の生活で生徒のものづくりに対しての知識や実践が少なく、技能面での向上に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲を高めていくために、生徒個人の問題解決や課題設定の時間を充実させていく。 ・ 実習で創意工夫ができる題材を設定する。 ・ 得た知識を作業などで生かし、どうすれば問題解決ができるか考える場面や生徒同士の学び合いの場面を設定する。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションや表現活動への意欲が二極化している。 ・ 長文読解や自由英作文など、英語を英語のまま理解したり、英語で表現する活動に苦手意識を持ったりする生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パフォーマンステスト、プレゼンテーションなどを通して表現活動への抵抗感がなくなるようにする。 ・ 日頃から長文を読む機会を多く取り入れる。また、Classroom で英作文の課題のやり取りを行い、英文を書く機会を多く提供する。 	